

震災教訓の共有むすび塾@インドネシア（河北新報社と共催）

掲載 013年04月24日

(C)河北新報社



東日本大震災の被災者とスマトラ沖地震で被災した現地の住民が、教訓の伝承について意見を交わした—23日午前11時ごろ、パンダアチエ市のムラクサ地区（写真部・佐々木浩明撮影）

むすび塾@インドネシア・ムラクサ

東日本大震災の教訓を今後防災・減災に生かすため、河北新報社は23日、巡回ワークショップ「むすび塾」をインドネシアのパンダアチエ市ムラクサ地区で開いた。国際協力機構（JICA）と共に。2004年のスマトラ沖地震の被災地と思いを共有しようと、海外で初めて開催した。東日本大震災の被災者3人と現地住民10人が、教訓を

二つの被災地 思い共有

海外で初のワークショップ

パンダアチエ（インドネシア高橋鶴男）報道部

語り継ぐことの重みを確かめ合った。

夫婦とも津波で失ったアイマンさん（46）は曰

た「神様は、何でも

波を思い続ける」と語った。

スマトラ沖地震で同市を襲った津波は最大約10mとされる。地区は市北部の海沿いにあり、約3万人が死亡・行方不明となつた。

本の津波を知つて、何もできなかつた当時の悲しみがよみがえつた」と涙ぐんだ。

イスラム教寺院のおさぎザミさん（62）は「神様は、津波は次も起りうる、津

波を思い続ける」と語つては、「パンダアチエの人々は、より明るい表情を眺めた」と話した。

東松島市の農田行政区長中山勝文さん（67）、大崎市の水難学会指導員安倍志

摩さん（51）、多賀城の東北学院大3年渡辺英輔さん（20）が被災体験を語った。



ムラクサ地区 16の村からなる。2004年のスマトラ沖地震では全ての村が壊滅的な被害に遭い、住民約3万4000人の9割が犠牲になつた。被災後は国内外の支援を受けて住宅を現地再建し、住民は1万6861人（11年）。漁業や農業が盛ん。

パンダアチエ タイ マレーシア 南シナ海
アチエ州 インドネシア スマトラ島 ジャカルタ
N インド洋

当地域は、2004年のスマトラ沖地震で壊滅的な被害を受けた。住民は約3万4000人で、9割が犠牲になつた。被災後は国内外の支援を受けて住宅を現地再建し、住民は1万6861人（11年）。漁業や農業が盛ん。

◆内容についてのお問い合わせは JICA 東北まで